

公益財団法人かめのり財団
平成 27(2015)年度 事業報告

平成 27(2015)年 4 月 1 日～平成 28(2016)年 3 月 31 日

平成 27 年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

基本方針として、定款にうたわれる 3 つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等
その基盤支援事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を
諮ることができた。

○重点施策

1. 青少年留学支援事業

(1) 高校生交換留学支援

平成 27 年度のかめのり財団アジア・オセアニア高校生交換留学プログラムはアジアから
の受入のみとし、(公財) AFS 日本協会に委託し、以下のとおり実施した。

年間プログラムでは、第 9 期生は、中国生 1 名が自らの進学に関する個人的な理由で早
期帰国したが、5 名が日本の各地域で、学校通学、ホームステイを通じて異文化体験をし、
平成 28 年 2 月に帰国した。5 名の受入生は、地域に溶け込み受入家庭の一員として有意義
な体験をし、社会、文化を学ぶとともに、異文化理解および相互理解を深めることができ
た。また、夏休みにはかめのり財団が実施するかめのりスクールにて、他地域の高校生と
も交流を深めることができた。

【高校生交換留学プログラム 実績】

	受 入	
	第 9 期 H26 年度(2014)	第 10 期 H27 年度(2015)
中国	1	2
韓国	1	1
インドネシア	1	1
タイ	1	1
フィリピン	1	2
マレーシア	1	1
合計	6	8

(2) 大学院留学生支援

以下の奨学生 8 名に月額 20 万円を支給した。

平成 27(2015)年度 大学院留学アジア奨学生

姜 民護 (韓国)	Mr. Kang Min Ho	カンミンホ	2013. 4-2016. 3	同志社大学大学院 社会学研究科社会福祉学専攻
周 鑫 (中国)	Mr. Zhou Xin	シュウキン	2013. 4-2016. 3	一橋大学大学院 法学研究科法学・国際関係専攻
胡 新祥 (中国)	Mr. Hu Xin Xiang	コシンショウ	2014. 4-2017. 3	立教大学大学院 文学研究科日本文学専攻
姜 哲敏 (韓国)	Mr. Kang Cheol Min	カンチョルミン	2014. 4-2017. 3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科社会工学専攻
洪 驥 (中国)	Mr. Hong Ji	コウキ	2014. 4-2017. 3	早稲田大学大学院 法学研究科公法学専攻
周 静 (中国)	Ms. Zhou Jing	シュウセイ	2015. 3-2018. 3	京都大学大学院 教育学研究科教育科学専攻
蔡 睿 (中国)	Ms. Cai Rui	サイエイ	2015. 4-2017. 3	名古屋大学大学院 法学研究科総合法政専攻
金 ボラ (韓国)	Ms. Kim Bora	キムボラ	2015. 4-2017. 3	東京大学大学院 経済学研究科現代経済専攻

大学院生へのサポートの一環として、平成 27 年 9 月 13 日～15 日、石川県金沢市で研修交流会を実施した。各自の研究テーマの発表と意見交換、研究分野のミニ講義、上級生からの論文指導、現在抱えている課題等を共有することによって、奨学生の状況を把握し、学生同士の親睦を深めるよい機会になった。

また、平成 28 年度採用の「大学院留学アジア奨学生」の募集・選考を行った。指定校を 20 校から 24 校に増やし、そのうち 16 校から候補生の推薦があり、平成 28 年 3 月 3 日に選考試験（面接）を実施し、奨学生選考委員会により以下の 3 名を奨学生として決定した。

李 侑娜 (中国)	Ms. Li, YouNa	リュウナ	2016. 4-2019. 3	慶應義塾大学 法学研究科公法学専攻
陳 晨 (中国)	Ms. Chen, Chen	チンシン	2016. 4-2019. 3	法政大学 人文科学研究科日本文学専攻
蔡 珂 (中国)	Ms. Cai, Ke	サイカ	2016. 4-2019. 3	千葉大学 人文社会科学研究科文化科学研究専攻

2. 青少年交流および言語教育支援事業

(1) 財団主導事業としての助成

助成審査委員会の審査を経て、以下、助成を行った。

① (公財) YFU 日本国際交流財団

第8期 高校生短期交流プログラム：630万円

派遣は韓国のみ5名で平成27年8月に行われ、中国は諸事情により見送ることとなった。受入は平成28年1～2月に行われ中国、韓国各5名ずつ、1か月間、学校通学やホームステイを通じて、異文化体験をした。それぞれ意識の高い生徒の参加により、各方面から評価も高くそれぞれの国との相互理解をより深めることができた。

② (学) インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢

ISAK サマースクール 2015：200万円

平成27年7月18日～30日の間、アジアを中心とした80名の中学生と日本の中学生を対象に軽井沢でアウトドア活動を含めたリーダーシッププログラムを行った。「多様性に関する寛容力」、「問題設定能力」、「困難に挑む力」を兼ね備えたチェンジメーカーの育成と国際交流を通じて異文化理解を目標とし、座学だけではなく、チームでの協働作業をしながら、多様な背景を持つ中学生たちが、言語、宗教、経済的な差異を超え、お互いの考え、意見を尊重し、皆で力を合わせて助け合った。参加者からはリーダーシップの授業で学んだことを通じて、物事を俯瞰で捉えることができてきた、等の感想を含め、大変評価が高く、好評であった。

③ (公社) 日本ユネスコ協会連盟

第2回高校生カンボジアスタディツアー：350万円

平成27年8月12日～21日の間、全国から選考された10名の高校生が、カンボジアのプノンペン、コンポントム、シェムリアップの3都市を訪問した。プノンペンでは在カンボジア日本国大使館、UNESCO プノンペン事務所を訪問し、カンボジアにおける遺跡保存、識字教育等の現状を、そしてサンボープレイクック遺跡では現地高校生のガイドとともに、7世紀の遺跡や周辺の村の生活様式を学んだ。シェムリアップでは日本ユネスコ協会連盟が協力しているバイヨン寺院での石像修復プロジェクトの一部に参加し、また当該団体が実施している貧困村における教育、生活向上支援の現場を訪問し、そこで学ぶ子どもたちや技術指導を受け、ものづくりに励む交流を通じて、考えを深めた。帰国後、参加者たちがカンボジアの現状を多くの日本人に伝えるべく新聞投稿や文化祭での発表等の具体的活動を行った。参加者はカンボジアで様々な刺激と気づきを受け、大変意義深いプログラムであった。

(2) 国際交流事業の一般公募助成

一般公募で、日本とアジア・オセアニアの国際相互理解の増進に寄与する大学生交流事業をはじめとする国際交流活動、異文化共生活動等を含めた以下の10のプロジェクトに計394

万円の助成をした。当初の募集で採用された 7 件のプロジェクトのうち、学生が中心となる団体によるものが 2 件のみの採用であったため、学生団体のみを対象とした追加募集を実施し 3 件が採用され、計 10 件のプロジェクトへ助成した。

- ① 平間わんぱく少年団による「韓国民話公演と日本語を学ぶ韓国小学生交流」へ 70 万円
- ② (特) 日本国際ボランティアセンターによる「タイの次世代に伝える福島の経験と教訓プロジェクト」へ 50 万円
- ③ 「話してみよう韓国語」東京・中高生大会 2016 実行委員会による「話してみよう韓国語東京中高生大会 2016」へ 30 万円
- ④ (公社) ガールスカウト日本連盟による「ミャンマー・フレンドシップ・プロジェクト」へ 50 万円
- ⑤ 南北 코리아 と日本のともだち展実行委員会による「南北 코리아 と日本のともだち展」へ 50 万円
- ⑥ グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部による「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2015 本会議 広島・東京大会」へ 30 万円
- ⑦ (特) エデュケーション・ガーディアンシップ・グループによる「第 6 回全国高校生日本語スピーチコンテスト」へ 20 万円
- ⑧ 任意団体 IDPC による「社会事業創発プログラム」へ 27 万円
- ⑨ 京論壇 2015 東京大学実行委員会による「京論壇 2015 東京セッション」へ 40 万円
- ⑩ 医療系学生による国際協力隊 euphoria による「インドネシア-日本 保健福祉グループワークキャンプ」へ 27 万円

(3)国際交流事業

平成 27 年度は以下の国際交流事業を実施した。

① 第 7 回中学生交流プログラム

当初 (一社) 国際フレンドシップ協会によるプログラムを計画していたが、当該団体の都合により実施団体を変更することになり、(公財) AFS 日本協会によりタイ王国との相互交流のプログラムを委託事業として実施した。今回は「津波」をテーマとしたテーマ型学習を取り入れ、プログラムを実施した。受入はタイ王国の 9 名の中学生が 10 月 5 日～13 日、東京、福島を訪問し、駐日タイ王国大使館への表敬訪問、ホームステイや文化体験を、麴町学園女子中学校、福島県立会津学鳳中学で日本の中学生と交流したほか、福島の被災地を訪問した。また、派遣は平成 27 年 10 月 31 日～11 月 8 日、全国から選考された 10 名の中学生がタイ王国を訪問し、在タイ王国日本国大使館への表敬訪問、プーケットの Satree Phuket School、バンコクの Wat Ratcha Oriot School で、日本紹介やホームステイの体験を通じて交流したほか、プーケットの被災地を訪問した。日本とタイ王国の人々との友好を深めたほか、それぞれの文化、社会を学び、より日本への理解を深め、大変好評であった。

② 日本高校生「ふれあいの場」訪中事業

日本の高校生を対象に（独）国際交流基金 日中交流センター（以下日中交流センター）との共催事業として「日本高校生『ふれあいの場』訪中事業」を実施した。平成 28 年 3 月 23 日～29 日の間、全国の 12 名の高校生と 5 名の教員が、中国 瀋陽、長春、北京を訪問し、在中国日本国瀋陽総領事館訪問、そして日中交流センターが大学生交流として実施している吉林大学「ふれあいの場」のイベントへの訪問、東北育才学校や長春日章学園の学校訪問やホームステイを通じて異文化体験をし、天安門広場、故宮博物館等の文化視察を行い、日本・中国間の相互理解と友好関係をより深めることができた。参加者の中国に対するイメージがプログラムを通じて前向きなものに変化し、参加者より高い評価を得た。

③ かめのりスクール 2015

高校生を対象に「かめのりスクール 2015」を平成 27 年 8 月 21 日～24 日にて実施し、高校生交換留学プログラムのアジアからの留学生 5 名と日本各地からの高校生 9 名が幕張国際研修センターにてプログラムに参加した。参加者は、日本人と留学生が混在するグループにて、共に異文化理解を促す研修を受け、アジアを舞台に活躍する方々の講演を聞いた。また、東京を散策するオリエンテーリングを計画、実施し、その結果をグループ毎でまとめ、発表した。活動を通して高校生が交流し、友好と相互理解を深めた。

④ かめのり地球青少年サミット 2016（Kamenori Earth Youth Summit 2016 [KEYS2016]）

大学生を対象に「かめのり地球青少年サミット 2016」を平成 28 年 2 月 11 日～14 日、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催した。アジアから香港中文大学(中国)およびデ・ラ・サール大学（フィリピン）の学生を各 4 名招聘し、日本で学ぶ留学生および日本人大学生計 12 名が、『アジアの将来に向けた課題と展望 ～ワン・アジアを目指して～』のテーマのもと、政治・社会、経済、教育、環境の 4 つの分野で、今後のアジアの抱える諸問題について、基調講演、講義、共同研究、討論を通じて、参加者は交流を深め、お互いを理解することができた。平成 28 年 2 月 14 日に各グループが課題解決策を発表する研究発表会を行い、審査員から高い評価を得た。

また、海外からの 8 名の参加者は「かめのり地球青少年サミット 2016」開催後、東京、箱根・富士山見学や風鈴絵付け等の文化体験も行い、参加者には大変好評であった。

(4) 海外日本語教育サポート事業

平成 27 年度は以下の事業を実施および助成した。

① （独）国際交流基金との共催事業「にほんご人フォーラム 2015」の実施

学習者と教師の研修プログラム「にほんご人フォーラム 2015」を平成 27 年 8 月 6 日～14 日の間、マレーシア インターナショナル・ユースセンターで実施した。本事業はこ

れからの社会で求められる能力の育成を組み込んだ外国語教育のモデルを創造して実践し、中等教育における「にほんご人」ネットワークを形成し、若い世代の相互理解の促進とグローバル人材の育成を目指して、10年間で実施する事業である。平成25年度、26年度は日本で集合フォーラムを行ったが、平成27年度は初めて海外 マレーシア・クアラルンプールにて実施した。タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、日本の6か国を対象に、高校生24名と中等教育機関の教師12名が、高校生セッション、教師セッションに分かれて活動する一方、教師は高校生セッションの観察を踏まえ、言語、文化、これからの社会で求められる能力を取り入れた授業を考える課題に取り組んだ。

高校生セッションは「思い込み」をテーマにグループで協働作業をし、最後に成果発表を行ったほか、マラッカの見学、マレーシア文化体験等もおこない、6か国の高校生が交流し、友好と相互理解を深めた。また、東南アジア各国で行われる選考、研修、およびフォローアップ事業を本事業の関連事業として実施した。また、第1フェーズ3年間の評価も行い、平成28年度からの3年間の第2フェーズへの提言をまとめた。

② 国際交流基金ベトナム日本文化交流センター「2015 ベトナム中学生日本語キャンプ事業」への助成：

ベトナムの中学生を対象に、教室活動では得られない日本語学習の楽しさを体感するとともに、既習語彙・文型の積極的な活用を促すことを目的に平成27年7月28日～30日の3日間、ハノイ市郊外の宿泊所でベトナムの中学生日本語履修のベトナム人中学生38人とベトナム人日本語教師15人が参加し、第3回目のキャンプを開催した。「理想の学校」をテーマに、日本語を使いながらのオリエンテーリング、「理想の学校」の模型作りなどを行い、また、体操、日本の遊び、日本クイズ、日本語を話して集めるスタンプラリー、キャンプファイヤーなどの活動を通じて、他都市間の中学生、教師が交流し友情を深め、教室外で実際に日本語を使うことで、日本語学習の成果や楽しさを実感し、今後の日本語学習の意欲を高めた。参加者からは非常に高い満足度の結果が出て、十分な成果を収めることができた。

③ ホーチミン市師範大学「ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム」への助成：

東南アジアにおける日本語教育の推進と国際交流を目的として、ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム「東南アジアの日本語教育の役割ーグローバル人材育成とつながるネットワーク」が平成27年9月19日～20日の2日間、ホーチミン市統一会堂で実施された。東南アジア各国の日本語教育のリーダーによるパネルディスカッションや研究発表分科会、講演には、ベトナム人を含む東南アジア各国から約390名、日本人約120名が参加、また、同時に開催された東南アジア8カ国の学生による日本語コミュニケーションコンテスト「日本語トーク」には一般参加者を含む約800名が参加した。シンポジウムを通じて、日本語教育における東南アジアでの課題が明確になると共に、スピーチコンテストや学生間の交流を通じて、日本語教育に関する興味を喚起し、理解を

高めることができ、十分な成果を収めることができた。

3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

(1) 異文化理解講演会

平成 27 年度の講演会は以下のとおり実施した。

- ・王敏理事による講演会

「宮沢賢治と漢字と日本語と国際交流 -日中のお面比べ-」

北海道登別明日（あけび）中等教育学校（平成 28 年 3 月 14 日実施）

参加者数：約 120 名

- ・金利恵氏（韓国伝統舞踊家）による講演会

金利恵とわんぱくな子どもたち

「ハナ・トゥル・セ・ネッ（1，2，3，4）！虹がかかった～」

川崎市国際交流センターホール（平成 27 年 7 月 25 日実施）

参加者数：約 300 名

両講演会とも、日中、日韓の文化理解を促すもので、参加者も大変興味深く聴講した。

(2) かめのりフォーラム

「かめのりフォーラム 2016」を平成 28 年 1 月 8 日に開催した。第 1 部はかめのり奨学生の体験発表、そして「これからの宇宙探査について～火星に人は住めるか～」をテーマに上杉邦憲氏（国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 名誉教授）からゲストスピーチがあり、宇宙開発の現状と未来についての講演は、聴衆から大変好評であった。

4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

交換留学、日本語教育、そして文化・スポーツの交流に草の根で貢献している団体・個人の活動を顕彰する「かめのり賞」の受賞団体を選考し、以下の 8 団体に第 9 回かめのり賞を表彰し、正賞の記念の楯と副賞として 50 万円の活動奨励金を贈呈した。

【第 9 回かめのり賞受賞団体】（敬称略）

（特）国際地雷処理・地域復興支援の会

川崎・富川高校生フォーラム・ハナ実行委員会

（公財）民際センター

認定 NPO 法人 IVY

（特）在日外国人教育生活相談センター信愛塾

（特）APLA

認定 NPO 法人 国境なき子どもたち（KnK）

りてらこや新潟

5. その他

(1) 広報活動の強化

継続的にホームページの充実を図るとともに、当財団の活動を関係団体はじめ広く周知するために、事業活動を紹介するニュースレター「かめのりコミュニティ」を7月、12月、3月と年3回発行した。

(2) ITの整備

いままで奨学金を支給していた過去の奨学生に関して現状を把握して、かめのりコミュニティの特集号で紹介する以外に、継続的にかめのり財団との関係をつなげるべく、OB. OGのネットワークづくりのため立ち上げたFACEBOOKを含み、引き続きIT環境の整備を行った。

(3) 中長期計画の策定

平成28年4月にかめのり財団10周年を迎えるにあたり、次の10年間の事業方針及び中長期計画の策定を実施した。平成27年度に策定した具体的な事業計画は平成29年2月7日に実施する10周年記念式典にて発表する予定である。

以上